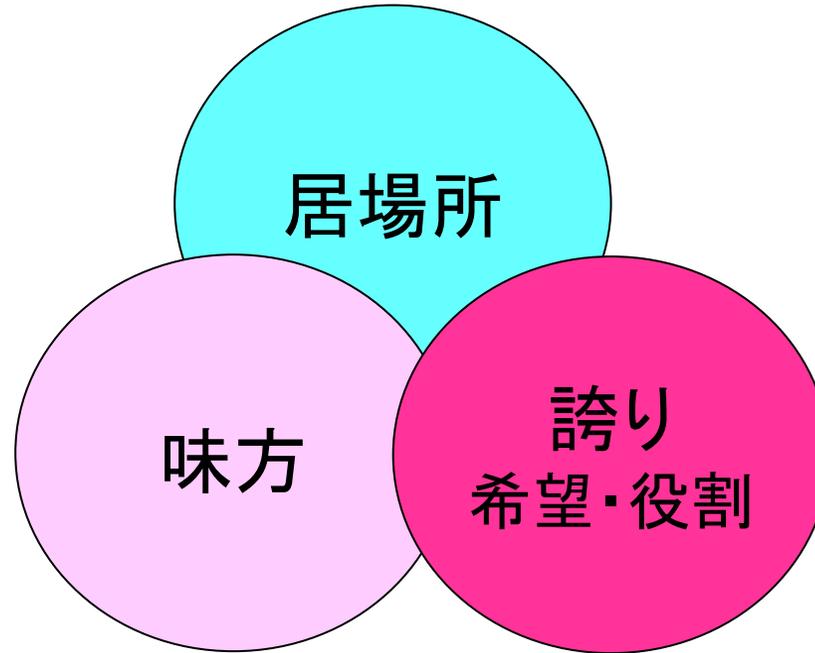


誇り・味方・居場所、そして、認知症 世界で・日本で・世田谷で



世田谷区認知症施策評価委員会委員長

福祉と医療・現場と政策をつなぐ「えにし」ネット

志の縁結び係&小間使い

朝日新聞医学記者⇒論説委員⇒阪大大学院ボランティア人間科学講座

⇒国際医療福祉大学大学院 医療福祉ジャーナリズム分野

ゆき さん(下馬の大熊由紀子)

9/15

No.1898

毎月1日・15日
25日(地域版) 発行

せたかや



認知症を体験した私がいま伝えたいこと

令和7年には、
65歳以上の5人に1人が
認知症になると見込まれ、
認知症は誰にとっても
身近になってきています。

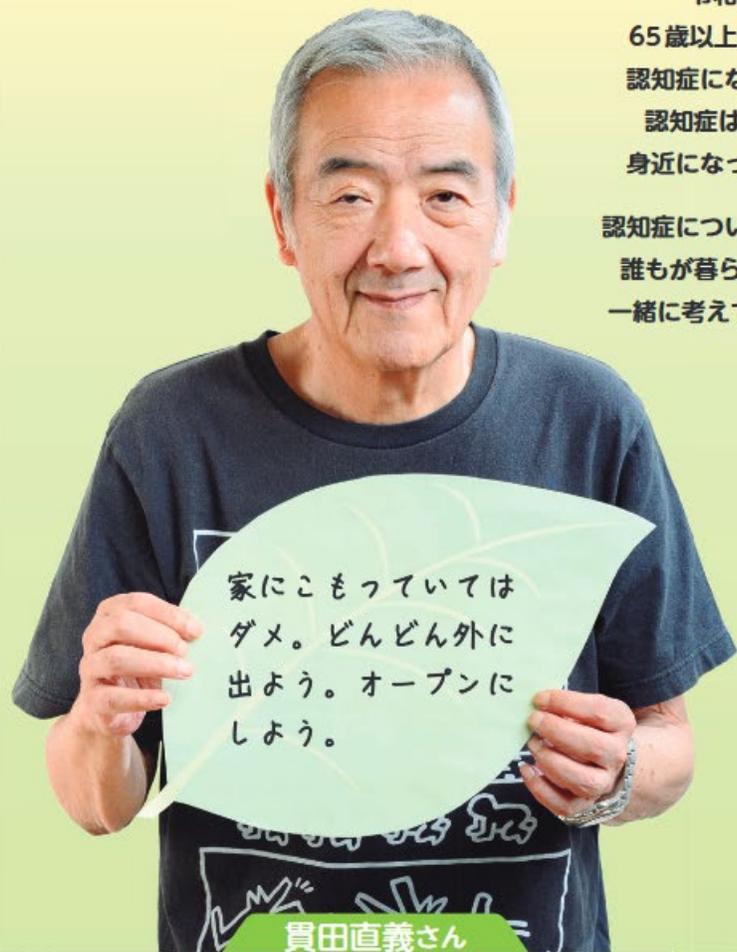
認知症について正しく理解し、
誰もが暮らしやすいまちを
一緒に考えていきませんか？

問 介護予防・地域支援課

☎5432-2954

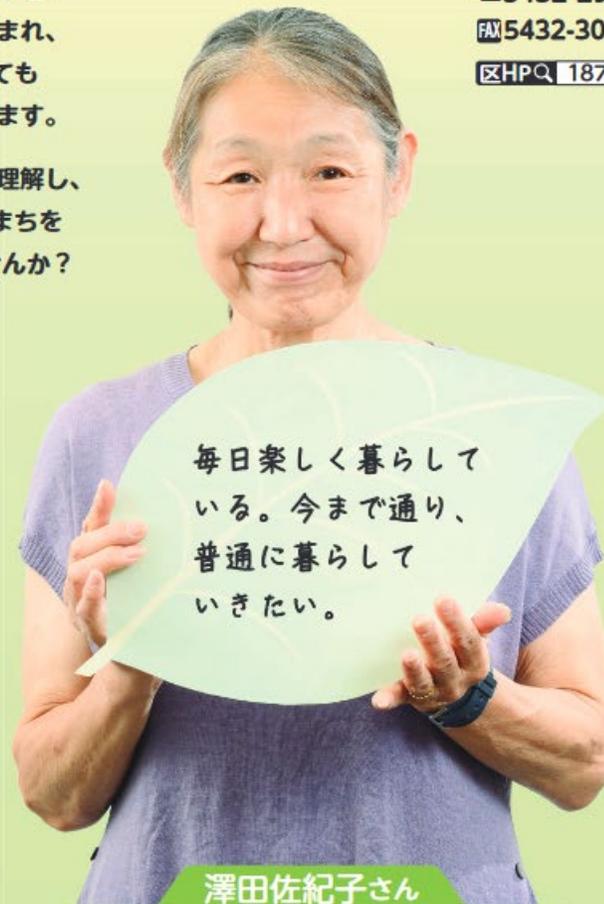
FAX 5432-3085

区HP Q 187370



家にこもっていても
ダメ。どんどん外に
出よう。オープンに
しよう。

貫田直義さん



毎日楽しく暮らして
いる。今まで通り、
普通に暮らして
いきたい。

澤田佐紀子さん

世田谷区
認知症と
ともに
生きる
希望
条例

世田谷区認知症希望条例、なぜ創られたのでしょうか？
認知症の人が増えていくから、だけでしょうか？

日本の「常識」も「対策」も、世界の「非常識」(その1)

条例の目的は、誤った日本の認知症観を変えること

★アタマを使っていれば、健康に気をつけていれば、予防できる

⇒アタマを使い健康に気をつけていたお3人も



★徘徊・暴言などの不可解な行動 ⇒ 了解可能な 心の叫び(東大松下名誉教授)

★「ご家族大変でしょう、お薬の調整のために精神病院へ」と

福祉・医療のプロが勧めるのは、日本だけの「世界の非常識」

★早期発見・早期絶望 ⇒ 早期対応、ケアと環境、仲間、先輩の力

★認知症になったら、何も分からなくなる ⇒ 認知症体験者が、助ける側に (o^^o)

片牌盤品

片櫃十飯名學

加歸報ホハトア

片教者教師

片オリンピック選手



2019.4 世田谷区認知症条例検討会第1回

「認知症の人が事故を起したら区が賠償金」という条例をつくる計画

形ばかりの1回だけの公聴会、参加者から「とんでもないこと(▼▼)」

保坂展人区長「ご懸念はごもっともです」

2019.8.28 区長室・仕切り直し メモの抜粋

【世田谷区条例の基本的方向性】

自治体の条例の多くは、賠償保証に象徴される「事件後の対応」に留まっており、事件や事故を未然に防ぐことができる地域社会を作るという本質的課題の実現を十分に指向していない。

国際的には**Proactive（後手に回らず先手勝負）**という言葉が認知症政策のキーワードとなっている。これはいわゆる予防とは異なる概念

タイミングを逸した事後的対応によって希望を見失うのではなく、その事件の上流にある本質的課題に先制的に取り組み、希望を見出していくという意味。

世田谷区条例では、「本質的課題に先制的に取り組み、**希望を見出していく地域**の実現を本気で志向し、**認知症の人と住民との協働創造（co-production）**によって打破することを理念として掲げる必要がある。

世田谷の認知症とともに生きる希望条例

- ① 検討会に、「認知症を体験した委員」
- ② 「やさしさ」より、「希望」
- ③ 「予防」より、「そなえ」
- ④ 「サポーター」から、「パートナー」
- ⑤ 「勉強する講座」から、「みんなでアクション」
- ⑥ 「早期診断・早期絶望」でなく、「体験した先輩とともに」

-----*★*-----

身近な地域で「アクションチーム」
「みんなでアクションガイド」

「アクション」って？ それは、真のボランティア

英語の**ボランティア** 北欧語の**フリヴィリ**には、

「**日本型福祉**」1979年**経済審議会**が提唱した
暇な人の「**ただ働き**」

という意味はまったくありません

語源は、**ラテン語のウォロ (V o l o)**
「志す」 「進んで……する」という意味

ノロ (N o l o) は、いやいや……をする

ウォロには**命令形**がありません

日本語訳として最も素晴らしいのは、
早瀬昇さんの「ほっとかれへん・がまんだけへん」



ボランティアの「ヴォル」は、
火山・ヴォルケイノと同じで、
中から噴き出してきて
止めようとしても止められない思い

恋♡にそっくり(^_-)-☆
抑えきれない思いに突き動かされて、

「認知症になっても、安心な世田谷に」
「早期発見が、早期絶望に繋がらないように」

チョイボラ、居るボラ、繋ぎボラ。。。

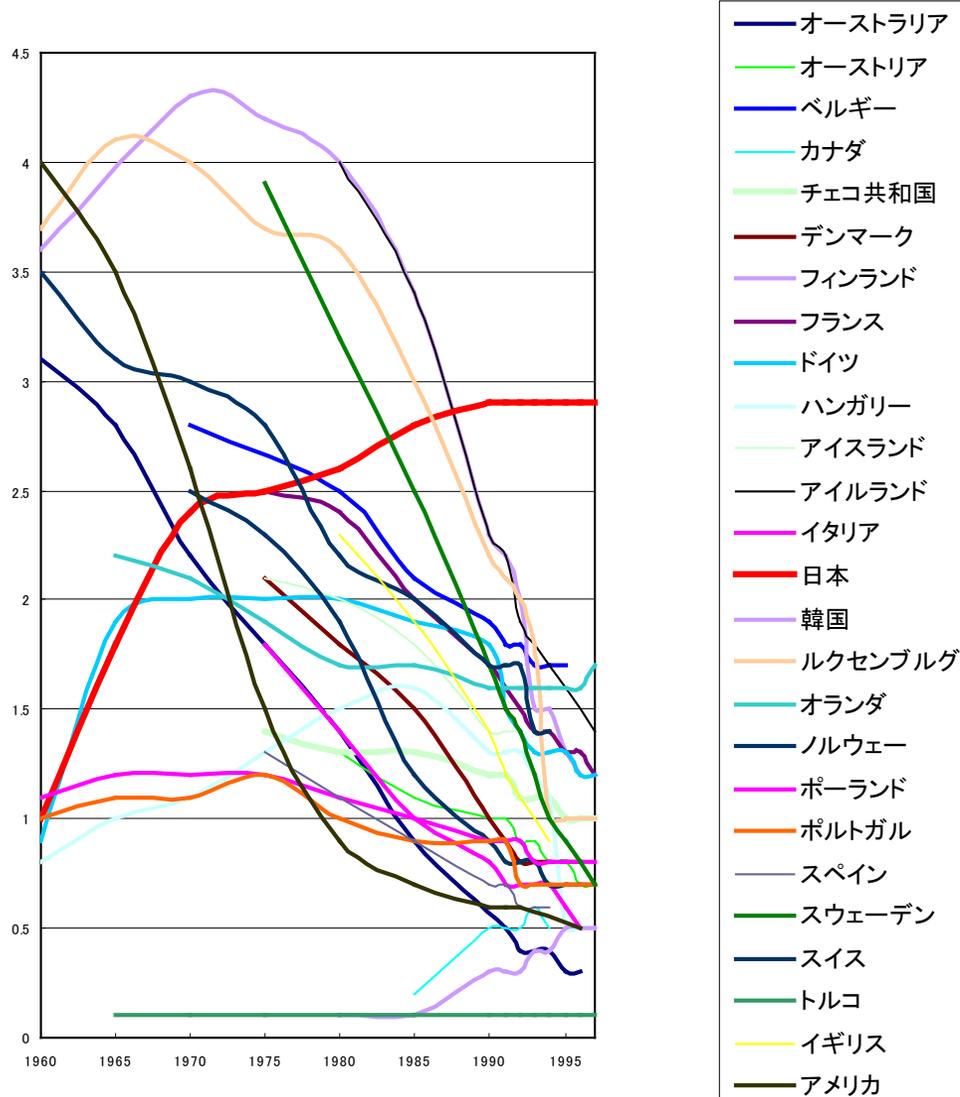
皆さまは、

銭形平次のような
特技と権限を持った「本業ボラ」



日本の人口は世界の2%足らず
 精神科ベッドは世界の37%
 空きベッドに認知症の人を⇒国際常識の対極にあるもの

人口1000人あたりの精神病床



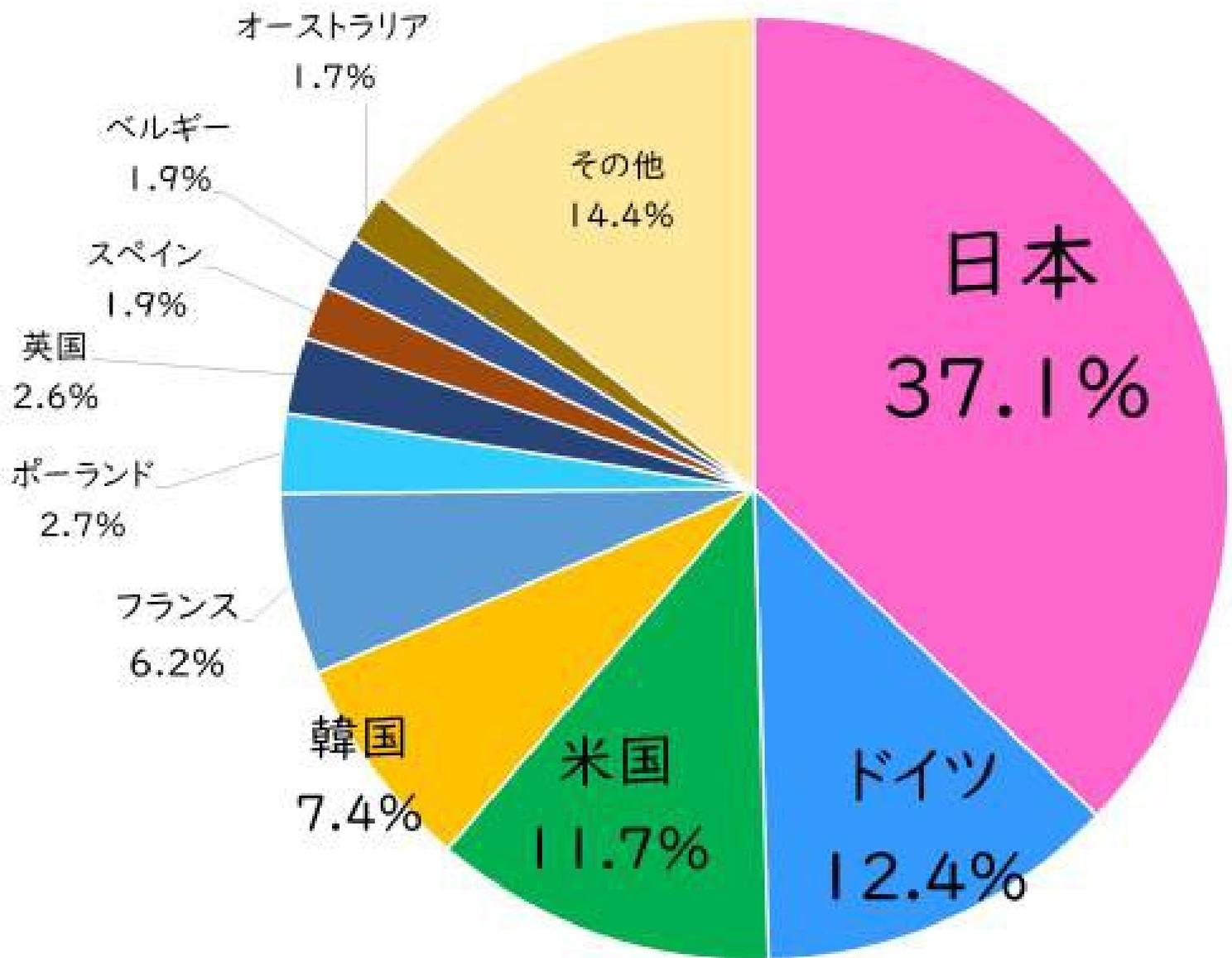
日本の精神科病院のトップの日常
 NHK「クローズアップ現代」より



精神病院の身体拘束
 人口あたり
 アメリカの270倍、
 オーストラリアの580倍
 ニュージーランドの2000倍

OECD加盟国

精神科病床数比較(推定)



作成：藤井克徳／佐野竜平
(2022年8月)

本業ボランティア・山崎史郎社会・援護局長・当時（世田谷区民）

いま、内閣官房全世代型社会保障構築本部事務局総括事務局長



かつて、私たちは認知症を何も分からなくなる病気と考え、徘徊や大声を出すなどの症状だけに目を向け、認知症の人の訴えを理解しようとするどころか、多くの場合、認知症の人を疎んじたり、拘束するなど、不当な扱いをしてきた。

今後の認知症施策を進めるに当たっては、常に、これまで認知症の人々が置かれてきた歴史を振り返り、認知症を正しく理解し、よりよいケアと医療が提供できるように努めなければならない。

認知症観の転換

西田淳志・上野秀樹・ゆき(世田谷区認知症施策評価委員)がadviser

今後の目標

このプロジェクトは、「認知症の人は、精神科病院や施設を利用せざるを得ない」という考え方を改め、「認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けることができる社会」の実現を目指している

⇒オレンジプラン
ところが。。



苺とクリームで飾られたデコレーションケーキ



「精神病院が司令塔」と加筆。東京の記者気がつかず、新聞には載らず
共同通信だけ「見え消し版」を入手。

専門家も「新」なのだからよくなったのだと錯覚

白雪姫の毒リンゴ・知らぬが仏の毒ミカン

2015「新オレンジプラン」(『精神医療』誌)

▷ 毒入り「新オレンジプラン」 2015

厚生労働省の原案「本人の発言を重視」⇒
精神病院経営者の親族の議員が

「精神科病院が司令塔」と加筆

証拠の「見え消し版」を入手した共同通信 ⇒

古い認知症観に引き止めようとするさらに2つの困ったこと

▷ 日本にしかない困った福祉・医療のプロ
素晴らしいケアマネさんがおられる一方で

「家族に同情して精神病院入院を勧め、
その後をフォローしない」10人中9人
条例の二次計画では、

皆様のようプロが「希望条例を尊重」

▷ 時代遅れのサポーター講座

「認知症とは、脳の細胞が死滅し。。。」

認知症の人を探して「助けてあげる」

⇒ 幸い、厚労省は2022年5月30日改定作業に着手。

座長・宮島俊彦さんも世田谷区民

⇒ 世田谷区の担当課長が招かれて発言

「認知症基本法」が成立

(世田谷の条例をモデルに \ (^▽^*) /)





スウェーデンでは 藤原瑠美さん撮影

©RUMI Fujiwara Hospitality 2013 All Rights reserved



1970年代のスウェーデン 藤原瑠美さんの博士論文から



うば捨て棒 スウェーデン



思い出の家具に囲まれた
自分の部屋(デンマーク)

と
回廊式(日本)
と

デメンシアと呼ばれる人々の
異常な行動は
異常な環境と
異常にケアへの
正常な反応です

オーストラリア
クリスティン・フライデン



背景に

「ノーマライゼーション思想」

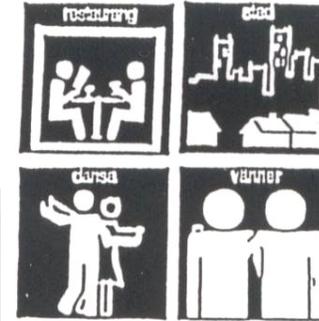
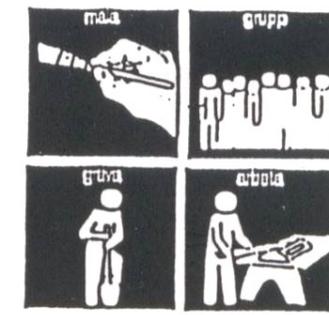
生みの父バンクミケルセンさん
反ナチ運動で強制収容所へ
その体験から

どんなに知的なハンディキャップ
が重くても、

人は街の中のふつうの家で
ふつうの暮らしを味わう**権利**があ
り

社会はその権利を実現する**責任**が
ある。

1959年法（デンマーク）



「ふつうの生活
とは

ふつうの家
仕事や生きがい
ふつうに余暇
友達・恋人・家族

日本の「常識」も「対策」も、世界の「非常識」(その2)
「寝たきり老人」概念のない国 と ある国(西暦2000年には100万人に)



1985



認知症で独り暮らし・イヤリングとマニキュア 養老院カット・寝かせきり!!!

デンマークの
高齢者医療福祉
3原則 1982

人生の継続性の尊重
自己資源(残存能力)の活用
自己決定の尊重

アンデルセン教授
専門は自治体行政
と経済学



アンデルセン大臣

1989日本に招待
戸井田厚生大臣と縁結び
シンポジウム
「寝かせきりゼロ」を求めて
包括性・継続性・市町村の権限
地域包括ケア



「寝たきり老人」という言葉がない、独り暮らしの認知症の人自宅で暮らすデンマークでは

ホームヘルパーに、求められている資質

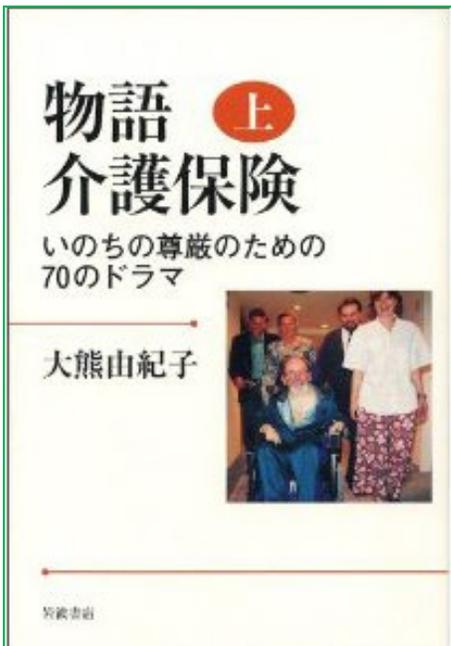
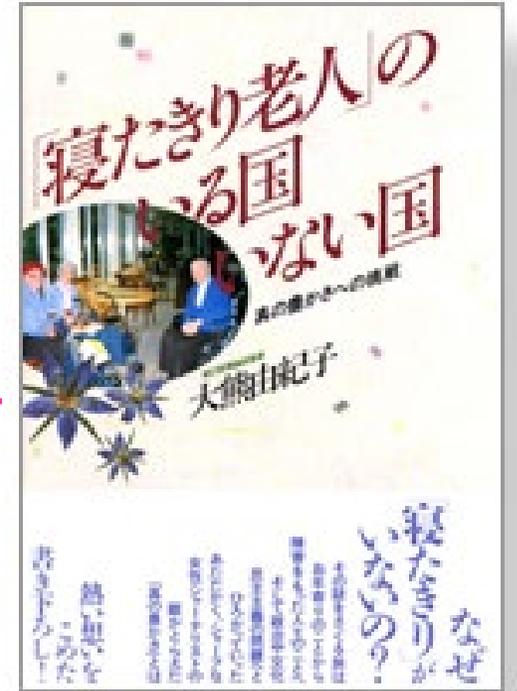
- ★認知症のお年寄りに尊敬の念をもて、なおかつ忍耐強い
- ★同じことを何度いわれても興味深く耳を傾け、気持ちを正確につかむ
- ★小さな変化も見逃さない繊細さをもつ
- ★奇妙な行動にも驚いたりせず、怒りを受け止められる度量がある
- ★機転のきいた受け答えが得意
- ★ユーモアがある

訪問ナース、世間話をしながら、見つけ出す7つのこと

- ★食事など日常生活は？
- ★孤独ではない？生きがいは？
- ★家族や隣人・友人とうまくいっている？
- ★症状に変化は？
- ★セルフケアの能力は保たれている？
- ★自立のために、さらに何が？
- ★会話能力・コミュニケーション手段は保たれている？

デンマークの訪問ナースをモデルに「ケアマネジャー」誕生

デンマークのホームヘルパーの月収は48万円、店員の38万円、運転手の44万円を上回ります。日本のヘルパーの月収10数万円とは大違いです。日本のヘルパーの給与は、勤務医の2割にもとどきません。デンマークのホームヘルパーの月収48万円は、デンマークの勤務医の月収の6割ほど



高橋幸男doctor（島根大学医学部臨床教授）からの手紙

私が心を痛めていることのひとつは精神科病院への認知症の人の入院が増えていることです。

空いた病床を認知症の人で埋めているのです。

誰が精神科病院へ入院させるのか、家族が、そう簡単に精神科病院に連れて行くとは、思えません。

ケアマネに勧められて精神科病院に向かう人が多いのでは、と思うようになりました。ケアマネたちの認知症理解が乏しいと知ったからです。

ケアマネは認知症の人や家族と最も多く接する職種でありながら、認知症については「**古い疾患中心の知識**」しかないといっても過言ではなく、認知症の人の思いを知るような教育は受けていないのではと確信しました。

もちろん立派なケアマネも知っていますし、すべての人ではありません。認知症の人や家族が暮らしやすい社会をつくるためにも、ケアマネこそ最低限“からくり”を知ってほしいと思い、『認知症を受け入れる文化、そして暮らしづくり～ケアマネに知って欲しい認知症についての最低限の知識』を上梓した次第です。

3冊のベストセラー

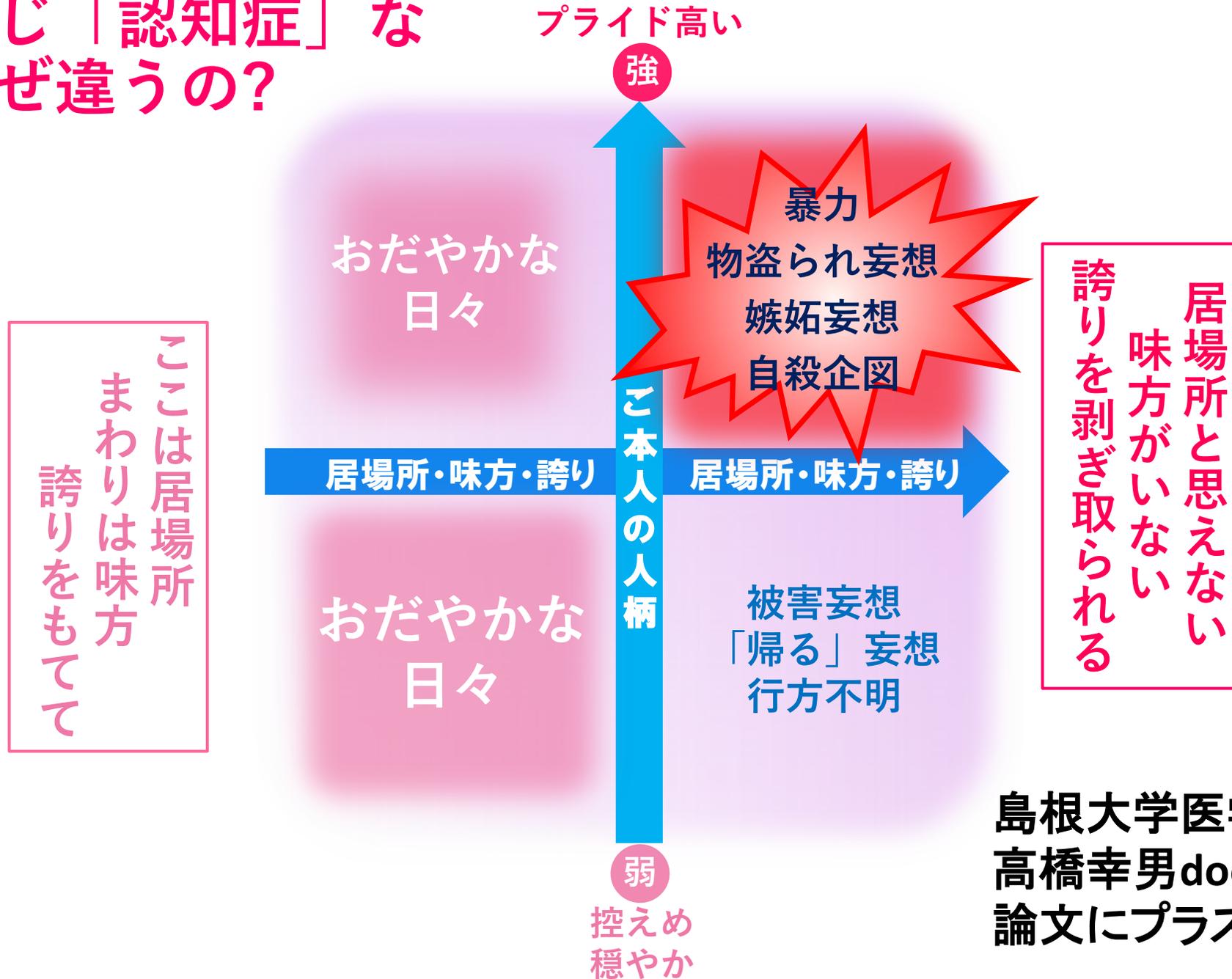


認知症を
受け入れる文化、
そして *For Care manager*
暮らしづくり

高橋幸男
精神科医
医療法人エス・エー・エー・エー
ケアマネジャー協会理事長

～ケアマネジャーに知って欲しい
認知症についての最低限の知識

診断は同じ「認知症」なのに、なぜ違うの？



島根大学医学部臨床教授
高橋幸男doctorの
論文にプラスして、ゆき作成

例：副作用による興奮・粗暴行為の悪化

- 副作用に着目せず気がつかなければ
 - 認知症の悪化と誤解
 - 原因薬はそのまま投与
 - BPSD症状は悪化
- 悪化原因が副作用だと考えれば
 - 薬の中止、減量、変更
 - 副作用評価

- 予想される結果
 - 家族・介護者負担増
 - 入院・施設入所
 - 向精神薬・抗不安薬投与
 - BPSDの更なる悪化
 - 病態の評価が複雑化
- 予想される結果
 - BPSD悪化の原因検討
 - 適切な処置
 - QOL,ADLの維持、向上期待

両者の差は、QOLに極めて大きな影響
日本薬剤師会 山本信夫会長のパウポから

本業ボラ・薬剤師さん!!!

レカネマブ：私が適応の状態になって、もし医師に勧められても私には使用しないようにと家族に話してあります。
それにしても部会（公正にメンバー選んでる？）
～厚労省、大丈夫なんだろうか。
メディアの報道の仕方も気になる
（Facebookと 医療ジャーナリストの勉強会で警告）



宮岡 等 北里大学名誉教授（精神科）

前例を超えた 世田谷区の 認知症条例

「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」は、私たちのこれからの生き方・ともに暮らす地域への道しるべです。認知症を体験した委員とともに制定し、その思いを大切に、条例名に「やさしさ」ではなく「希望」という文字が入りました。予防より「そなえ」。そのために、ひとりひとり、またはみんなで「希望ファイル」をつくってみることが条例に盛り込まれました。早期発見・早期診断が早期絶望につながってきた過去への反省から、たとえば身近な地域で「アクションチーム」をつくる挑戦が始まろうとしています。「かわいそうな人をサポートしてあげる」のではなく、「パートナー」としてともに生きる。そんな世田谷をつくるために、魅力的なパネリストにご登壇いただきます。



基調講演 &
コーディネーター

たのひとと
丹野智文さん

新著『認知症の私から見える社会』は、300人を超える当事者との出会いから生まれました。フォルクスワグンの東北地区トップセールスマンだった8年前、39歳のときにアルツハイマー型認知症と大学病院で診断されました。絶望した丹野さんが救われたのは認知症の先輩との出会いでした。地元仙台では、「当事者の当事者による当事者のための認知症カレッジ」など幅広く活動しています。社長の方針で、いまもネットトヨタの社員。基調講演とともにコーディネーターもしてくださいませ。

プロジェクト 推進チーム 世話人

- 中澤まゆみさん
(情報発信担当・福祉ジャーナリスト)
- 長谷川幹さん
(地域づくり担当・せたがや福祉区民学会会長)
- 遠矢純一郎さん
(本人発信担当・認知症在宅生活サポートセンターを運営する在宅医)
- 西田淳志さん
(希望ファイル担当・世界の認知症政策に堪能)
- 永田久美子さん
(企画担当・日本各地の認知症施策の応援役)
- 大熊由紀子さん
(まとめ担当・志の結び係&小間使い)

会場マップ



交通アクセス

京王線・東急世田谷線 下高井戸駅 徒歩8分
(新宿・渋谷から10~12分)
京王線 桜上水駅(急行停車駅) 徒歩8~10分
(新宿・渋谷から10~12分)

ほさかのぶと
保坂展人区長



この条例には強い意欲をもって取り組み、毎回の議論にも参加してきました。2011年4月に就任して、3期目。「地域福祉」を重視し、世田谷区独自の28か所のまちづくりセンターに「福祉の相談窓口」を置いて、地域包括ケアを地区で展開。高齢者福祉のもっとも大きな課題として「認知症と共に生きる地域社会づくり」を重視しています。「参加と協働」を掲げた区政展開の中で、認知症当事者や家族、医療・介護関係はもちろん、多くの区民が熱心に語り、力をあわせる地域づくりを大切にしています。

パネリスト

はせばやすじ
長谷部泰司さん



スーパーマーケット関連会社の社長でした。認知症の症状が表れたのは退職した後の73歳の頃。ひとり暮らしのマンションはモップが片付かずなり、次女が暮らし世田谷区へ。「どうなってもいいんだ」といらいら、周りに怒りをぶつける日々。ところが、条例検討委員となり発言が尊重されるとともに、自信をとりもどしました。条例スタートの記念シンポジウムでは「条例は大きな希望になるのではないですか。老人を代表してお礼を申し上げます」と感謝の言葉を。



めぎただよし
貫田直義さん

テレビ東京の名プロデューサー。時代を先取りした連続企画「少年長谷時代」は、全国62カ所をロケ、歌手のアグネス・チャンなど異色のコメンテーターを起用し、看板番組に。テレビ東京アメリカの社長を退職後の70歳のとき、認知症状とともに「ソファの後ろからゴリゴリ」など幻視の症状が現れ、レビー小体型認知症と診断されました。「講演デビュー」がきっかけで、次第によりがみがり、動画づくりではみずから脚本を書くほどに。



さわださきこ
澤田佐紀子さん

30年以上、講師として小中高・特別支援学級で美術を教えていましたが、60歳を過ぎから、複数の学校や生徒を同時に把握したり、成績を付けたりすることが難しくなり、母親や祖母と同じアルツハイマー型認知症であると自覚。条例検討委員では「サポーター」だと頼ってしまう。「パートナー」だと自分も努力しようという気持ちが出てくる。だから「サポーターでなく、パートナー」に」と条例を方向づけました。佐紀子さん制作の「願いの葉」を貼りつけていく「希望の樹」は、認知症在宅生活サポートセンターを訪れる人たちに絶賛されています。

2021年11月6日(土) 条例1周年シンポ



いままで との違い

基本資料+講座の対象や状況に応じて柔軟に対応できる講座。

資料にはご本人出演動画やご本人の登壇も！
今後も柔軟に増やしていくことも可能！

<認知症サポーター養成講座>

- “本人”が不参加。本人が聴くとつらい内容
- 医学モデルでの認知症の知識
- 認知症の症状のために困っている人を“サポートする”
“ノウハウを知る”
- 地域で“見守り”していこう
- 受講した証明は“オレンジリング”

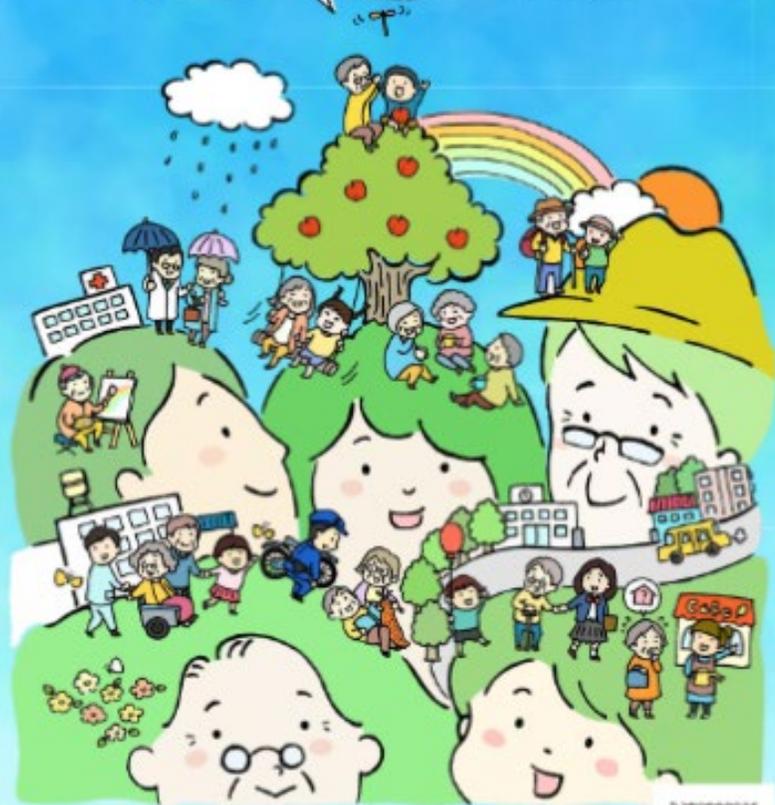


<アクション講座>

- “本人”が参加できる
講師にもなれる
- “生活モデル”で“生活障害”の理解
- 認知症体験者の“声”から、自分ごと
- 地域でともに生きるパートナー
- 地域で暮らすために“希望”を語る
- 参加者には“アクションガイド”

「認知症は怖い・なりたくない・自分はならない。けれど、優しくしてあげましょう」という
 誤った、時代遅れの認知症観を変えるために
 「認知症サポーター養成講座」から、「アクション講座」(世田谷版認知症サポーター養成講座) に
 厚生労働省の検討会に世田谷区が招かれて報告したときのスライドです。

世田谷 認知症とともに生きる
みんなでアクション
ガイド



このガイドを手にしたあなたへ

だれもが、日いちにち、そして長い年月を
自分なりに暮らしています。

いくつであっても、認知症になってからも
世田谷のまちで、毎日を楽しむ、元気に、
自分らしく暮らし続けられるように。

それを夢物語ではなく
みんなでいっしょに実現していくために
世田谷区では「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」
(令和2年10月施行)がつけられました。

これからの日々を
あなたが、よりよく暮らせるように、
そして、あなたが暮らす世田谷が
ともに暮らしやすいまちになるように。

このガイドをもとに、
いっしょに学びあい、語りあい、
できることからひとつずつ、楽しいアクションに
チャレンジしていきましょう。



世田谷区では「認知症とともに生きる希望条例」の
取り組みを推進しています。

世田谷区 認知症とともに生きる希望条例 | パンフレット ▶

世田谷区 認知症 条例 検索



※条例パンフレット
ご活用ください



等々力小学校
2021・10.9.
AM 9

条例をつくる検討会の**体験者委員**のひとり
長谷部さん

73歳ころから異変、独り暮らしの部屋は座る場所もなく「どうなってもいいんだ」といら立ち、まわりに怒りをぶつけるように。

松沢病院で、**アルツハイマー型認知症**と診断委員会が始まったときは、ほとんど発言がなく。でも、その後。。



Alzheimer's Disease International Conference at London in 2022.6.9

「希望条例」1周年でシンポで
コーディネーターをつとめてくださった
丹野智文さんが招待されて



体験者だからこそその
ボランティア

In-Clinic PEER SUPPORT With a Couple

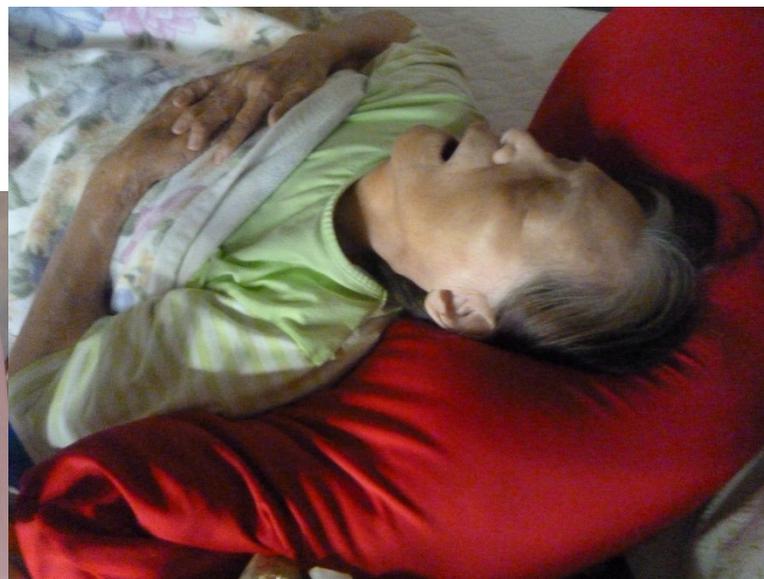
「認知症と診断された直後は、不安と恐怖から落ち込みます。その時、経験者である認知症の人との出会い、語り合うことは、最も必要な支援で、これは認知症当事者でなければ、できない支援なのです」



東北大学医学部臨床教授
山崎英樹先生のクリニックで。

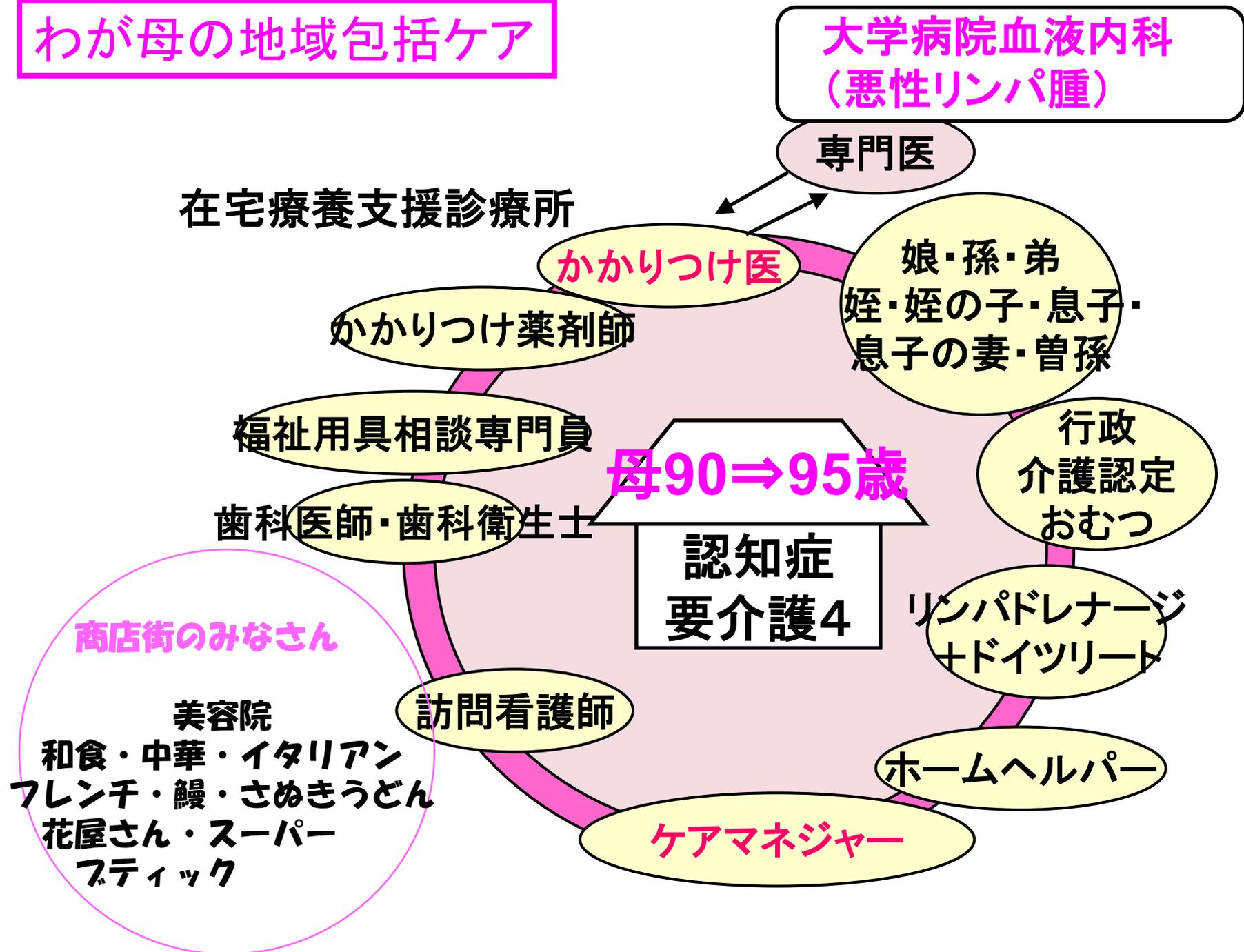
スタンディングオベーションが！

末期癌、認知症、要介護4と認定



世田谷区下馬で
独り暮らし
90歳・認知症の母
病院から
退院してきたとき
ケアマネさん叱られました
「引き取ったりせず
住みなれたマンションに」

わが母の地域包括ケア





希望を大切に、そして、
母を褒めまくりました
「まあみん、凄い!!!!!!!」

「月1回はイベントを」
と孫と企画して、なだ万へ
板前さんが気をきかせて
くださいました (*^ー^*)





同じ日の母 昼と夜
入れ歯とウィッグ眼鏡
という名の福祉用具を
はずすと、精神病院や療養型に
「入院」しているひとに
そっくり。ということは。。。



国会議員にもなった著名な
精神科医の精神病院の
認知症治療病棟

「入れ歯はを飲み込んだら
危険」とはずされ
うつろな表情
世田谷の
東京都医学総合研究所で
開かれた国際会議で、
各国の研究者が驚愕

驚き・呆れる ←

日本は不思議な国
海外の専門家が

感動する →

居場所

味方

誇り
希望・役割



「デンマークの福祉大臣が
感動したこの笑顔
だれでも、必要な時に、
必要なだけ」「年中無休」
「手続きも簡略」。
富山の「このゆびとーまれ」

アクションガイド まとめのページにご登場

◆◇認知症になったことを公表した

長谷川和夫名誉教授の珠玉の言葉◆

★認知症になったからといって、突然、人が変わるわけではありません。

自分の住む世界は昔も今も連続しているし、**昨日まで生きてきた続きの自分がそこにいます。**

★**認知症になっても大丈夫**。認知症になるのは決して特別なことではないし、怖がる必要はありません

★認知症の人と接する時は、
その人が話すまで待ち、

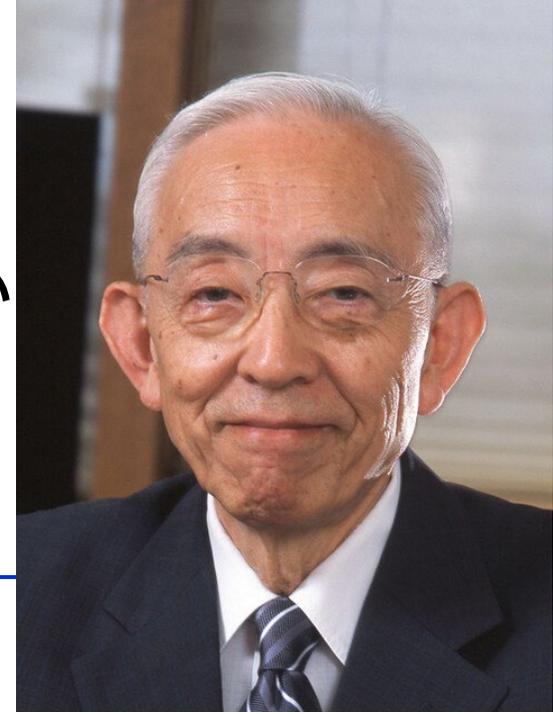
何を言うかを注意深く聴いてほしい。

『時間がかかるから無理』と思うかもしれない

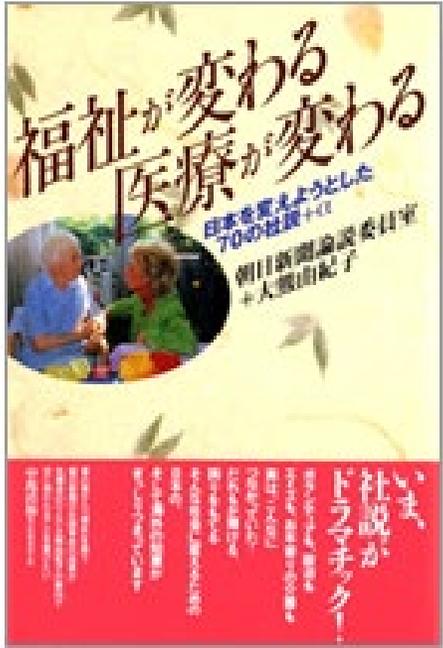
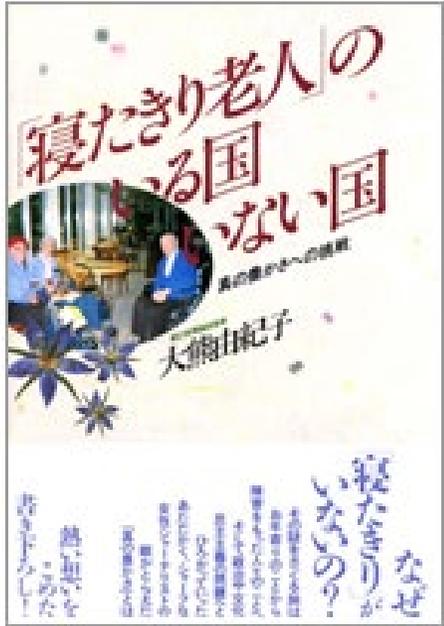
『聴く』というのは『待つ』ということ。

『待つ』というのは、

その人に自分の時間を差し上げるということ。



ご希望の本の名前とご住所をお名前をyuki@spa.nifty.comまで



誇り・味方・居場所
私の社会保障論
大熊山紀子



日本最高の福祉医療ジャーナリストが
書き続けた珠玉の提言！

第1部「ケアという思想」では、「ケアという文化」の本質と歴史を、
第2部「社会保障が変わる・変える」では、変革者の実践を紹介。
そして、第3部「わが母の地域包括ケア」では、真の社会保障が、
「誇り・味方・居場所」を保障することであることを自身の体験から
明らかにします！
社会保障変革のためのバイブルがここに誕生しました！

物語 上
介護保険
いのちの尊厳のための
70のドラマ
大熊山紀子

物語 下
介護保険
いのちの尊厳のための
70のドラマ
大熊山紀子

ゆき. えにしネット

福祉と医療、現場と政策をつなぐホームページ

えにしのページへようこそ(^^)(^^)(^^)

「えにし」の名の由来は、2001年5月、プレスセンターで開いていただいた
【新たな縁(えにし)を結ぶ会】に遡ります。

一人のジャーナリストと縁があるという、
ただ、それだけの縁で集ってくださった分野の違う方々の間に、
不思議な、新たな縁が結ばれ、広がっていきました。



このホームページが、福祉と医療とまちづくり、
そして、現場と政策の新たな縁結びにつながることを願って、
少しずつ内容を充実してまいります。
時々覗きにきてくださいね(^_^)☆

ご意見、お便りをお待ちしています。
dzy00573@nifty.comへどうぞ!

大熊由紀子 (朝日新聞論説委員室→阪大ソーシャルサービス論
→国際医療福祉大学大学院・佛教大学社会福祉学部・筑波技術大学など)

更新履歴はこちら

メニュー

詳しいことは

<http://www.yuki-enishi.com/>

「ゆきえにし」で検索すると でできます。

誇り・味方・居場所～私の社会保 障論	2017/10/10
社会保障と政治の部屋	2019/04/01
福祉医療政策激動の部屋	2021/02/01
物語・介護保険	2010/09/13
福祉・医療人材とケアの質の部屋	2021/08/09
選んだ場所で誇りをもって	2018/03/05
雑居部屋の部屋	2013/09/02
ホスピスケアの部屋	2021/08/30
福祉の町・秋田県鷹巣町がつくり 上げたもの・失ってしまったもの	2014/10/27

認知症の部屋	2021/09/06
自立生活の部屋	2016/10/04
福祉用具の部屋	2019/05/06
精神医療福祉の部屋	2021/09/06
身体拘束の部屋	2020/07/26
障害福祉政策・激動の部屋	2021/08/16

インフォームド・コンセントの部 屋	2021/03/22
在宅ケアの部屋	2021/01/11
たばこの部屋	2020/04/13
くすりの部屋	2021/01/25
「子宮頸ガン予防」?ワクチンの 部屋	2021/09/20
医療事故から学ぶ部屋	2021/03/29
患者体験者と遺族に学ぶ部屋	2007/11/20

優しき挑戦者の部屋・国内編	2020/11/16
優しき挑戦者の部屋・海外編	2020/09/21
被災した方を応援するために	2016/05/09
世直しの人間科学	2008/02/02
100のチェックポイント	2006/01/02
少子化・子育て・教育の部屋	2015/05/17
千葉・ちいき発	2008/06/23

公開講義・倫理と変革の部屋	2021/09/20
医療福祉ジャーナリズム分野 修士・博士コースへのお誘い	2010/12/19
メディアの部屋	2018/03/05
メディアと冤罪の部屋	2020/04/06
写真帳から (pictures)	2002/01/01
目からウロコのメッセージの部屋	2013/08/25
シンポジウムの部屋	2014/08/17
"秘蔵"資料の部屋	2005/12/02
障害差別をなくすための 海外資料翻訳の部屋	2007/05/13
卒論・修論・博論の部屋	2020/10/25
世界とところかわれば	2015/07/06

らうんじ・えにし	2021/04/05
えにしの方の墓碑銘	2021/09/20
年賀状から	2021/01/04
えにしの本のエッセンス	2021/08/16
ゆきの部屋	2016/07/04
えにしの人々の組織にリンク	
えにしの人々のページにリンク	2021/02/08